

学校図書館の現状と更なる充実について

1 現状

読書は、子どもが思考力や問題解決能力を身につけたり、いろいろな考えに出会い自分の夢を見出していくために欠かせない経験である。学校図書館は、子どもに最も身近な学校という環境において、本に触れる機会を作り出すことができる場所である。学校図書館の機能を見直し、より充実を図っていくことは、子どもが生涯読書に親しんでいくための基盤を培う上で重要である。

(1) 学校図書館の環境

子どもが読書を通して、問題を解決できたり、いろいろな考え方に会うためには、いろいろな本にふれる必要がある。そのために、「蔵書の充実」と「司書の配置」と「配架の工夫」が重要である。



<清水二中 学校図書館 新刊本コーナー>
学校司書手作りのブックスタンドで本の面出しを行う。子どもが本を手に取りやすい温かみのある配架。

①「蔵書の充実」

いろいろな本にふれるためには、蔵書が充実している必要がある。

- ・静岡市では蔵書率は全ての学校で100%を超えている。

②「司書の配置」

図書館を訪れた子どもを本と結びつけることができる重要な役割を担っており、子どもの本への興味・関心をさらに深めることができる存在である。

- ・静岡市では小学校で68校、中学校で37校の計105に配置
- ・1日4時間で、学校規模に応じて年間125日～175日の勤務

③「配架の工夫」

子どもがいろいろな本を手取るきっかけとして、子どもが興味を持つような配架の工夫が大切である。

- ・静岡市では学校司書の配置されている学校では、掲示や配架の工夫が見られ、本を手に取りやすい環境が整っているところもある。

(2) 市立図書館との連携

①協力貸出・団体貸出の活用

- ・需要が増えてきており、利用率も上がっている。

※協力貸出…テーマを受けて市立図書館が選書。
20冊×5分野を2週間借りられる。

※団体貸出…絵本、読み物を300冊、3ヶ月借りられる。
本の制限有り。

小学校		中学校	
利用校の割合	総貸出冊数	利用校の割合	総貸出冊数
77.9%	16,665冊	48.8%	1,699冊

「平成28年度 調査結果（静岡市）」

②研修会・年間2回、市立図書館職員を講師とした研修会を実施。

2 課題・検討の視点

- ①「蔵書の充実」については全ての学校で蔵書率100%を超えてはいるが、クラス数で左右されるため子どもによって触れられる本の数に差が出る。
→子どもがたくさんの本に触れる機会を提供する。
- ②「司書の配置」については司書教諭や学校司書がない学校がある。
→小規模校（学校司書未配置校）の学校図書館経営の充実を図る。
- ③「配架の工夫」については専門的な技能が必要である。
→専門性に裏打ちされた組織的な学校図書館運営の推進。

3 今後の取組の方向性

方向性1：子どもがたくさんの本に触れる機会を提供する

※子どもの好奇心を刺激して、子どもの「読書」の機会や「学び」の幅を広げる。

方向性2：小規模校（学校司書未配置校）の学校図書館経営の充実を図る

※市内のどの学校の子どもも同じように、本に触れる機会をもてるようにする。

方向性3：専門性に裏打ちされた組織的な学校図書館運営の推進

※本に興味がない子も来なくなる図書館にする。

4 目指す子どもの姿

- ・子どもが、自分の疑問や課題、悩みを解決したり探求心を満たしたりするための手段の一つとして本を手に入れている。
- ・好ましい読書体験を積み重ねることで、本を手にする習慣が身に付いている。